

令和7年度 八王子市立たがの杜小中学校(第四中学校) 学校評価総括

めざす学校像	子ども、保護者、地域、教職員に愛され、誇れる学校				アンケート実施 生徒:11月及び全国学力学習状況調査等 保護者:11月 教職員:12月 アンケート回収率(合計)69%				
	〇確かな学力を身に付けさせる学校		〇一人ひとりの良さが伸ばされ、活かされる学校		〇信頼関係のある温かい学校		〇地域社会と協働する学校		
知性	生徒(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		生徒(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		教職員(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		自己評価		学校関係者評価
	教え方はわかりやすい	96.0	意欲をもって授業にのぞんでいる。	97.1	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	100	<p>学校教育目標「知性」に関する肯定的回答は、59.5%から100%までのばらつきが見られた。</p> <p>「教え方はわかりやすい」の96.0%は、昨年度の74.4%から大きく上昇した。引き続き校内外の研修等をはじめあらゆる機会を通じて、教師一人ひとりの高度専門職としての授業力向上を図っていく。</p> <p>しかしながら、59.5%となった「授業中、すすんで自分の考えを発表している」、64.5%となった「予習や復習を心がけている」については、授業改善の視点として捉える必要がある。具体的には、すすんで考えを発表して学習を深める授業になっているのか?予習や復習をしたい、することでもって学習が深まる、等の実感をもてる授業になっているのか?等の視点で振り返り、引き続き、あらゆる機会を通じて授業改善を図っていく。</p> <p>なお、義務教育修了段階で全生徒に身に付けさせる社会生活を営む上で必要最低限の知識・技能の習得を確認するための「はちおうじっ子ミニマム」については、20点満点の18点以上の生徒、第2回で第1回よりも得点が向上した生徒を合わせた結果、国語で88.7%、算数で95.6%だった。</p>	<p>全体的に見た時、大幅に改善された項目もあり、満足のゆく結果であると言える。ただし、生徒の「授業中進んで自分の意見を発表している」、「予習や復習を心がけている」の数値が他の項目と比較して低い数値となっているのは注視する必要がある。ICTの活用(運用)については昨年度の78.8%に比べ81.9%と改善されているがまだ十分でないのではないか。それとは相反するが、漢字等は紙に書いても良いのではないかと、また、「読書センター、情報センター、学習センターとしての学校図書館の整備と活用」の項目については73.7%と比較的低い数値となっている。新校舎の整備にあたり学校図書館の整備・拡充に向けて生徒・教職員へアンケートを取ることなども必要なのではないか。</p>	
	授業で集中できる	94.0	真面目に授業を受けている。	94.6	生徒一人ひとりの学習定着状況の正確な把握と適切な指導・支援	100			
	友だちや自分の意見が大切にされている	97.0	チャイム前に準備をして着席することができている。	97.7	生徒一人ひとりの問題解決的な学習の充実を図るための授業展開・組み立ての工夫・改善	94.7			
	生徒に対して、公平に接している	96.6	授業中、すすんで自分の考えを発表している。	59.5	論理的思考力、批判的思考力の向上に向けたプレゼンテーション等表現活動の充実	100			
	本時のねらいまたは目標を示している	96.4	分からないことは先生や友だちに聞いている。	93.2	読書センター、情報センター、学習センターとしての学校図書館の機能の整備と活用	73.7			
	自分の学習の取組をきちんと評価している	96.3	授業中、自分の考えを他の人と共有し、話し合い活動をしている。	91.4	「八王子市版 GIGA スクール」の定着による ICT 活用技能の向上	89.5			
	調べたり、考えたり、話し合ったりする場面を授業の中に取り入れている	92.5	授業で使う道具を準備している。	86.9	必要に応じた補充学習の実施	100			
	必要に応じて1人1台の学習用端末などのICT機器を活用した授業を行っている	81.9	ノートや提出物、宿題などをきちんと出すようにしている。	89.9					
	質問に答えている	98.5	予習や復習を心がけている。	64.5					
	黒板にわかりやすく書いている	96.2	学習用端末を使用した授業は楽しい。	86.9					
	授業を進めるスピードは、ちょうど良い	94.5							
	授業の開始時刻と終了時刻を守っている	97.9							
	授業中のトラブルにも適切に指導している	97.0							
授業の最後に学習内容を振り返る活動を設定している	89.2								
公正	生徒(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		保護者・地域(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		教職員(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		自己評価		学校関係者評価
	いじめを許さない学校づくりへの取組	92.1	(保)いじめを許さない学校づくりへの取組	86.0	人権教育の推進を通して、自他を尊重し、いじめを許さない思いやりのある態度の育成	94.7	<p>学校教育目標「公正」に関する肯定的回答は、生徒は約90%、保護者は約86%、教職員で約95%だった。「明るく爽やかな挨拶を交し合う教育環境の整備」については、「あまりあてはまらない」が約16%であり、原因を明らかにした上で、具体的な手だてを講じる必要がある。</p> <p>いじめに関する設問については、「いじめを許さない学校づくりへの取組」が生徒で約92%と昨年度の約87%から上昇した。保護者、地域で「わからない」の回答が少なくないことから、学校の取組を校外へ発信する必要がある。本校のいじめの認知件数は、令和6年度の23件が令和7年度に9件であり、令和6年度の継続7件のうち、6件解消した。この結果について、本校は教職員のいじめに対する態度がより一層高まり、未然防止へ向けた取組が効果的であったと自己評価している。</p>	<p>「生活指導への適切な取組」が生徒・地域ともに、また、生徒回答の「困っている人を助ける」がいずれも高ポイントなのは素晴らしいことである。また、生徒の回答の中で「自分自身は大切な存在である」が昨年度の76.3%から84.7%へと改善「自分には良いところがあると思う」が90.7%と昨年度の77.2%から大幅に改善されているのも評価すべきである。また、教職員のいじめ対策や登校支援の評価が高いことから先生方の自信が感じられる。</p>	
	生活指導への適切な取組	92.7	(地)いじめを許さない学校づくりへの取組	76.4	明るく爽やかな挨拶を交し合う教育環境の整備	84.2			
	将来の進路や職業についての指導	90.3	(保)生活指導への適切な取組	83.9	「認め、励まし、褒め、支える」指導・支援、自尊感情や自己肯定感、自己有用感、信頼関係の構築	94.7			
	仲間をいじめることなく大切にしている	91.4	(地)生活指導への適切な取組	100	誰一人取り残さない特別支援教育の充実による「共生社会の担い手」の育成	94.7			
	自分自身は大切な存在である	84.7	(保)特別支援教育への取組	83.1	考え議論する道徳授業の展開と充実	94.7			
	困っている人をすすんで助けている	94.4			自主的・実践的な集団活動の充実により、主体性や忍耐力の育成、達成感や成就感の感得	94.8			
	いじめは、どんな理由があってもいけないと思う	87.1			いじめを許さない学校組織と学校いじめ対策委員会の機能発揮	100			
	自分にはよいところがあると思う	90.7			一人ひとりの多様なニーズに応じた登校支援の充実	100			
貢献	生徒(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		保護者・地域(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率		教職員(「あてはまる」「だいたいあてはまる」)回答率				自己評価
	人の役に立つ人間になりたい	94.5	(地)地域と共にある学校づくりを推進している	100	義務教育9年間を見直し、地域に根ざした切れ目なく系統的・継続的な教育活動	94.7	<p>学校教育目標「貢献」に関する教職員の肯定的回答は98%となった。内訳に着目すると、各設問「だいたいあてはまる」が42~68%である。昨年度に引き続き、校内のみならず、小学校、地域行事等におけるボランティア活動等を広く募集・展開している。</p> <p>肯定的回答の割合は、教職員、保護者、生徒の順で下がる傾向にあり、学校が実施している教育活動の目的等をより正確に生徒や保護者に伝える必要がある。</p> <p>生徒の肯定的回答が46.4%となった「将来の夢や希望をもっている」については、設問における「将来の夢、希望」を大きく捉えて過ぎている可能性がある。参考として、市が実施している同様のアンケート調査では「こんなことができるようになりたい、という目標(現在の夢)をもっている」となっている。</p>	<p>生徒の回答率を見ると「人の役に立つ人間になりたい」94.5%と高ポイントな素晴らしいことである。地域として地域行事に接する機会を作り生徒が参加しやすい環境を作ることが必要である。ただ、「将来の夢や希望を持っている」の回答が昨年60.7%だったのに、今年は46.4%と低下している。進路や職業について生徒自身が考えられるような対策を講じる必要もあるのではないかと。</p>	
	地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う	70.4	(地)子どもは地域を大切にしている	94.1	地域運営学校として、地域と協働した教育活動の開発	100			
	第二小中学校と合同で取り組みを行っている	95.1	(保)子どもは公共物を大切にしている	90.5	地域社会・家庭と教育活動のねらい等の共通理解	100			
	将来の夢や希望をもっている	46.4	(保)将来の進路や職業についての指導	88.3	多様な教育力の活用とキャリア教育の充実	100			
	学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	70.4	(地)将来の進路や職業についての指導	100	「地域で・地域とともに・地域を学ぶ」系統性のある郷土学習	100			
	四中を誇りに思っている	77.3			危機回避能力の向上と自分の身は自分で守るための防災教育の充実	100			
	公共物を大切にしている	92.7			食育の充実と生活習慣の定着	89.5			
				地域でのボランティア活動等への積極的な参画	100				
				学校評価における地域・保護者との対話を通じた学校運営の改善	100				
めざす教師像 自己評価	人権尊重の理念を理解し、深い愛情を注ぐ教師		「あてはまる」52.6% 「だいたいあてはまる」47.4% 「あまりあてはまらない」0% 「あてはまらない」0%		肯定的回答は96%となった。内訳に着目すると、「だいたいあてはまる」が47%~57%である。「どちらとも言えない」という選択肢があった場合、結果が変化すると想定される。引き続き、教師一人ひとりが、高度専門職として、学び続けることのできる機会をつかむことのできる研修環境を整備する。		本校は大きな転換期、移行期を迎え教職員の皆さんが熱意と使命感をもって奮闘されている姿には敬意を表したい。		
	組織の一員として協働し、職務を遂行する教師		「あてはまる」36.8% 「だいたいあてはまる」57.9% 「あまりあてはまらない」5.3% 「あてはまらない」0%				「組織の一員として協働し、職務を遂行する教師」の「あてはまる率」が低いのがいささか気になることではあるが「だいたいあてはまる」を加えれば他の項目と大差なくなるので特に問題になることはないであろう。		
	真摯に研究と修養に励み、教育観を磨く教師		「あてはまる」47.4% 「だいたいあてはまる」47.4% 「あまりあてはまらない」5.2% 「あてはまらない」0%				なお、先日の小中一貫教育研究会を拝見して先生方のこれまでの努力を身近に感じることができた。その努力、精進に対して深い敬意を伝えるとともに感謝の言葉を贈りたいと思う。ありがとうございました。		
	熱意と使命感をもち、信頼される教師		「あてはまる」42.1% 「だいたいあてはまる」52.6% 「あまりあてはまらない」5.3% 「あてはまらない」0%						